

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年7月)

～訪日客の増加や猛暑効果で、現状判断は小幅上昇～

- 景気ウォッチャー調査・7月調査の近畿地域の結果は、現状判断が54.6と前月比で3か月ぶりの上昇(+0.1ポイント)となった。好不調の目安となる50は7か月連続で上回っている。一方、先行き判断も55.4と4か月ぶりの上昇(+1.1ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンドの増加を背景に、百貨店や都市型ホテルを中心に好調な動きが続いているほか、梅雨明け以降の猛暑により、百貨店やスーパー、家電などを中心に関連消費が増えている。また、今夏は新型コロナの5類移行を背景に、夏祭りや花火大会などのイベントが4年ぶりに開催された地域も多く、各地で客足の増加につながっている。
- 一方、物価やコストの上昇が続く中、幅広い業種に悪影響が広がっている。スーパーや家電量販店をはじめとする小売関連を中心に、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いているほか、製造業などの企業関連でも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化が広がっている。結果として、今月はインバウンドの増加や猛暑といったプラス材料による押し上げがあった一方、物価やコストの上昇による悪影響が目立つ形となった。
- 先行きについては、インバウンドの増加に対する期待が、百貨店やホテルなどを中心に引き続き大きい。特に多いのが、中国からの観光客の増加を期待する声であり、これまでの遅れを取り戻す動きが期待されている。今後は猛暑や夏休み需要といった、当月には押し上げに働いた要素が徐々に剥落することから、なおさらインバウンドへの期待が高まる形となっている。
- 一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は引き続き強い。価格転嫁が徐々に難しくなる中、スーパーや家電等を中心とした小売関連のほか、製造業や建設業といった企業関連でも厳しい声が多い。円安の継続が仕入れコストの高止まりにつながるほか、光熱費への補助の期限切れに対する懸念を含め、コストや諸物価の上昇に対する不安は、業種を問わず広がっている。

「猛暑」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(服飾品担当)	・コロナ禍が落ち着いて、初めての夏のセール時期を迎えたこともあり、来客数が大きく増え、都心店舗では前年比130%と大きく増えた。訪日外国人の来店も多く、主要品目ではラグジュアリー関連が10%増、コスメ関連が25%増、婦人衣料が20%増、フード関連が10%増となっている。気温の上昇とともに、盛夏商材が定価でも大きく動き、サングラスなどの商材が好調に売れている。
		百貨店(サービス担当)	・今月もインバウンド効果が好調で、化粧品や海外特選ブランド品の需要が多い。一方、猛暑による熱中症対策の商品が好調で、日傘やネックウォーマーなどの婦人用品がよく売れており、売上をけん引している。
		コンビニ(経営者)	・気温が35度を超えるような暑い日が続いているため、水やスポーツドリンク、ジュース、お茶などの冷たい飲料水が売れている。また、冷やしうどんや冷めんなども、弁当に代わって売れており、来客数が前年比で8%ほど増えている。

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（マネージャー）	・7月に入り、気温の高さと人流の増加で、国内の中間層向けの衣料品やアクセサリといった、ファッション商材が好調に推移している。特に、化粧品の上は前年比で30%増となっている。また、物価の上昇もあり、食品ベーカーリーや総菜、加工食品を中心に、2けたの増加となっている。富裕層やインバウンドも好調を維持し、来客数は全体で2けた増となっている。
		スーパー（店長）	・今月は猛暑日が続く、夏物商材の動きが活発になっている。衣料品では水着や浴衣、キャリーケースといったリゾート商材のほか、UV関連商材が売れている。また、食品では飲料やビール、アイス類などの販売が、前年比で10%以上増えている。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、日々の来客数も少し増加傾向にある。特に、総菜やインスタベーカーリーの売上が堅調なほか、気温の上昇に伴い、フライや天ぷらなどの揚げ物がよく売れているなど、家庭での調理を控える様子がみられる。
		スーパー（経理担当）	・7月は売上が堅調に推移しており、客足に猛暑の影響はみられない。物価の上昇で販売価格も上がるなか、節約意識は高いものの、ボーナスの増加などで所得も増えているため、全体的には売上の好調につながっている。
		コンビニ（店員）	・猛暑やインバウンドの増加で来客数が増え、冷たい商品の購入がみられる。
		家電量販店（経営者）	・マスク着用から解放されたほか、今夏が猛暑となったこともあり、エアコンなどの夏商戦が活気付けている。
		家電量販店（人事担当）	・梅雨が明けて、夏の暑さが本番を迎えたことで、ようやくエアコンの販売が伸びてきた。ただし、行楽や旅行などに客が流れているのか、来客数は前年を下回っている。今年は例年以上に気温が高いことから、外向きの消費からイエナカ消費にシフトすることを期待している。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・UV関連や制汗関連、殺虫剤といった夏用の商材に加えて、気温の上昇による飲料の販売が大幅に増えた。また、ドリンク類や感冒薬などの医薬品、化粧品や化粧品雑貨なども順調に売れている。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・暑い日が続いていることもあり、冷たい商品を含めて、大量にまとめ買いする客が増えている。
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊客は順調に増加が進み、宴会需要も増えているものの、レストランは猛暑の影響もあり、依然として集客が伸び悩んでいる。
タクシー運転手	・タクシー料金の値上げや、インバウンドの増加効果、夏の暑さによる追い風で、ドライバーの給料は久しぶりに向上している。		
変わらない	やや悪くなっている	一般小売店〔家具〕（経営者）	・暑さのせいで人が外出しない。
		百貨店（販促担当）	・ここ数か月の来客数は堅調で、コロナ禍関連のニュースに左右されることもほぼない。マスクについても、着用している人の方が少ない印象を受ける。前年以上の来客数や暑さなどの影響で、夏物商材の動きは良いが、食品には値上げの影響が徐々に出ており、販売点数の減少につながっている。
		百貨店（販売推進担当）	・今月の初旬は天候不順で、日傘や帽子といった季節商材が不振であったが、中旬以降は猛暑日が続く、回復してきた。一方、高級輸入ブランドの一部では、値上げ後に売上不振となるなど、高額輸入品全体では売上の伸びが鈍化している。
		スーパー（店員）	・梅雨明け以降は、猛暑続きで朝と昼の客が減っているが、夕方から夜の客が増えている。果物、野菜共に値上がりが進んでいるため、客の買物の様子は厳しくなっている。
		コンビニ（経営者）	・特に目立った動きはなく、暑さの影響でドリンク類の販売が多い程度である。
		コンビニ（店員）	・今月も異常な暑さが続いており、アイス類や冷たい商品の売上は好調であるが、手作り弁当や揚げ物は廃棄が多いため、品ぞろえを減らしている。
		家電量販店（企画担当）	・酷暑に伴い、エアコンを中心とした季節商材の販売が好調である。特に、電気代の上昇を意識した高額な省エネ冷蔵庫の販売が好調であるが、それ以外の家電やリフォーム商材は厳しい状況である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・ガソリンの出荷量は、前月は梅雨や天候不順の影響もあり、前年の実績を下回った。今月は、中旬から梅雨が明けて猛暑となったため、週末には前年の実績を上回る出荷量となっている。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・気温の上昇により、売上は好調である。
		観光型ホテル（経営者）	・都市近郊の観光地である当地域は、7月はオフシーズンであるが、今年は猛暑の影響もあり、予想を下回る人出となっている。
やや悪くなっている	やや悪くなっている	高級レストラン（スタッフ）	・梅雨時期から続く異常な暑さのせいか、客足が伸びない。
		一般レストラン（経営者）	・7月中旬以降は暑さが厳しく、特にランチ営業の来客数が減少している。
		美容室（店長）	・今月は非常に暑かったため、高齢の客が外出を控え、予約がかなりキャンセルとなっている。

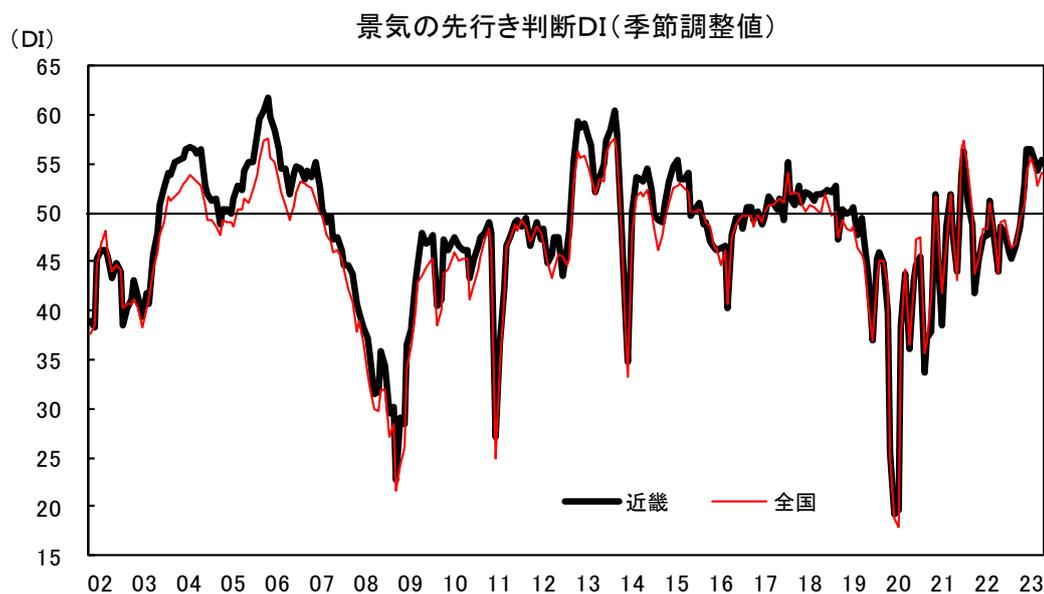
家計関連	悪くなっている	一般小売店 [時計] (経営者)	・連日の猛暑が続くなか、先日は当地域が日本で最も気温の高い地域になった。自治体からは不要不急の外出の自粛要請があり、人の姿をみることで自分が減っている。また、年配客の間では、新型コロナウイルスへの感染が怖いという理由で、マスクを外さない人も多い。暑さと息苦しさで、買物に出る気持ちの余裕もなく、来客数は減る一方である。時計の受取での来店を延期したいという電話も複数入っている。
		衣料品専門店 (経営者)	・梅雨明け以降は猛暑となり、来客数がかなり減少している。
企業関連	変わらない	電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・猛暑の影響で、エアコンや扇風機などの夏物商材の売上は、前年比で2けたの増加となっているが、冷蔵庫や洗濯機は前年並み、テレビは前年を割り込む推移となっている。
		その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	・梅雨が明けて、非常に暑くなっているが、夏物商材の動きは前年よりも悪い。
雇用	変わらない	学校 [大学] (就職担当)	・酷暑で人出が減っており、百貨店でも早々とお中元コーナーが縮小されている。また、新型コロナウイルスの5類感染症への移行後、周囲では新規感染者数が増えており、買物客が一度に購入する量も減っている。

「インバウンド」関連のコメント(先行き判断)

	一般小売店 [野菜] (店長)	・全体的にインバウンドも回復し、人の流れが活発になっている。後は戦争の勃発やロシアの新たな侵攻などがなければ、景気は良くなる。
	百貨店 (服飾品担当)	・外国人客の来店数が増えることが予想され、今後の売上の増加が期待できる。また、国内客の買上も、ラグジュアリー商材や秋冬の新作などの予約状況が大きく伸びており、今後にも期待が持てる。大阪・関西万博の開催に向けて、ブランドショップからの改装強化の話も増えていることから、企業側の期待も大きくなっている。マスクの着用の減少で、化粧品などの伸びも期待できそうである。
	百貨店 (サービス担当)	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことで、夏商戦に向けた各種イベントや催事での来客数の増加が期待される。また、海外からの観光客が更に増加するなか、インバウンド効果にも期待している。
	高級レストラン (企画)	・インバウンドによる宿泊が、中国人客を中心に回復し、企業の宴会も受注が増える見込みである。
	都市型ホテル (スタッフ)	・9月以降の客室稼働率は、週末を中心に高まっている。インバウンドの需要もみられ、稼働の底上げとなっている。食堂は、バスツアーによるランチの受注で満席となる日もあり、好調を維持している。宴会についても、同窓会や定例宴会がほぼ戻ってきており、好調の要因となっている。
	百貨店 (売場主任)	・都心部を中心に、国内の需要はかつてのスタイルに戻りつつあるなど、緩やかに増加している。また、インバウンド需要も更に増加すると予想される。ただし、物価の上昇や世界情勢に対する不安のほか、地方都市では人口減少に歯止めが掛からないなど、消費の減少材料も多く、先行きは決して楽観できない。
	百貨店 (企画担当)	・中国本土からの観光客の増加に期待している。
	百貨店 (外商担当)	・株高がまだしばらく続くと予想されるため、高額品は今後も売れると予想される。中国からの観光客がかつての水準に戻っていないものの、インバウンド売上も徐々に増えることから、売上の好調が続く。
	百貨店 (販売推進担当)	・年配客の動きの活発化や、中国人客の回復などで、コロナ禍による落ち込みからの回復が徐々に進む。
	百貨店 (マネージャー)	・インバウンドを中心に来街者が増え、かつての状況に戻りつつある。後はインバウンドの大半を占めていた中国人客の戻りが唯一の課題である。足元は、中国人客の売上は順調に回復しており、今後は更なる回復が期待できる。
	百貨店 (売場マネージャー)	・前年は7月後半から9月にかけて、新型コロナウイルスの感染第7波に見舞われ、来客数は減少した。今年は夏休みやお盆商戦の人流の増加が予想されるほか、インバウンドの増加もあるため、今後2～3か月は期待できる。
	コンビニ (経営者)	・現状に加えて、中国人観光客がかつての水準近くまで戻ってくると予想される。また、各種商品の値上げによる客単価の上昇も続くため、売上はまだ増えると予想される。
	衣料品専門店 (店長)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で人流が活発となり、店の前の人通りが増えている。また、外国人観光客も顕著に増加している。その一方、原価の上昇に伴い、売価を上げざるを得ない状況が続いているほか、マスクをする人が徐々に増えているなど、今後は予断を許さない。
	衣料品専門店 (営業・販売担当)	・外国人観光客の増加に期待したい。

家計動向関連	やや良くなる	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・インバウンドによる売上の増加傾向が、若干ではあるがみられる。今後も化粧品や嗜好品の販売が増えるほか、インバウンドの増加も予想されることから、大幅な伸びは期待できないが、徐々に好転していく。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・コロナ禍の収束がみられ、ウィズコロナに向けた気持ちの切替えが進んでいる。また、インバウンドの増加も続くため、景気は以前よりも良くなっていく。
		都市型ホテル（総務担当）	・季節も変わり、宿泊ではインバウンド、国内の旅行者共に、集客が見込まれるほか、宴会需要も高まる。今後はコロナ禍が落ち着く前提で、レストランの集客も徐々に増えると予想される。
		都市型ホテル（管理担当）	・インバウンド需要が増えているため、中国人客等の取り込みで増収が期待できる。
		タクシー運転手	・当分は、暑さしのぎやインバウンド効果が期待されるが、タクシーの台数が増えればバランスが悪くなるため、規制が必要かもしれない。過去の失敗で経験したように、タクシー料金にも規制が求められる。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・引き続きインバウンドが増加傾向となるほか、夏休みの旅行を中心に、外出意欲は前年度よりも期待できる。
変わらない	変わらない	百貨店（営業推進担当）	・富裕層向けの売上の伸びは鈍化しているが、インバウンドは2019年の水準を超えており、今後も増加すると予想される。
		百貨店（外商担当）	・中国からの旅行者の更なる増加が予想され、インバウンド関連の売上は増加が期待できるが、国内客の来店が頭打ちとなる。特に、富裕層の来店頻度の減少がみられ、今後の不安材料となりつつある。
		百貨店（マネージャー）	・現状、売上の回復は富裕層とインバウンドがけん引している一方、中間層の購買行動は活発になっていない。今後も売上は富裕層とインバウンド次第となるなか、インバウンドはオーバーツーリズムの問題もあり、不透明感は拭えない。
		コンビニ（経営者）	・身の回りの動きは、コロナ禍の収束やインバウンド消費の増加には関係がないため、大きな影響はないと予想される。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・国内外の人の流れは、かつてと同様になり、街もにぎやかになっている。ただし、インバウンドの向かう先は、ドラッグストアや飲食店、観光施設、海外ブランド店である。
		都市型ホテル（客室担当）	・観光業界にとっては、中国の状況が肝となるが、中国からのインバウンドは徐々に回復すると予想される。ただし、かつての状況に戻るには、まだもう少し時間が掛かる見通しである。
企業関連	変わらない	化学工業（経営者）	・取引先によっては、原材料価格の上昇や人手不足で厳しい状況がみられるが、インバウンドの回復で好調な企業もあり、全体としては現状が続くと予想される。
		化学工業（企画担当）	・インバウンドや国内消費の動きが、かつての状況に戻りつつある。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年		22年										23年												
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
現状判断	近畿	48.3	37.9	44.5	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2	56.4	55.5	54.5	54.6
	(全国)	48.1	35.1	42.7	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3	54.6	55.0	53.6	54.4
先行き判断	近畿	47.7	44.0	53.9	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5	56.4	55.2	54.3	55.4
	(全国)	48.2	43.2	56.6	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1	55.7	54.4	52.8	54.1

※季節調整値